

子どもの危機を救うのは

平成 19 年 12 月 18 日（火曜日）午後 6 時より市民会館 6 階に於いて、長崎県こども政策局長 浦川 末子氏を講師にお迎えし、長崎市育成連役員・市子連専門委員を対象に「子どもの危機を救うのは」と題して研修会が行われました。

長崎市育成連 中島会長より研修会の感想を寄稿していただきました。

長崎市青少年育成連絡協議会長 中島 公彦



各校区の青少年育成協議会の役員・指導者の皆様には子どもの非行防止と健全育成のため、各種行事を通して、地区活動の中で色々とお世話していただいていることに対して、心から感謝とお礼を申し上げます。

このように皆さんのご努力にもかかわらず一部には憂慮される子どもさんもいるようです。

今日子どもさんの状況も多様化していますので、これらに対応できる指導者・育成者が求められることから、指導者・育成者自らの研鑽も大切なことではないでしょうか。

今回の研修会の講師については、長崎市の実情を知った実務的で且つ子どもを自ら育てようという意欲の強い先生をお願いしたいということで、伊良林小学校の元校長で、県でも抜擢されたこども政策局長、浦川末子先生が最適者としてお願いいたしました。

県議会中ではありましたが、お引き受けいただき、「子どもの危機を救うのは」と題して講演をしていただきました。

浦川先生は私たちにわかり易いように、実例や色々な資料を作って、幼児から大人について幅広いお話をいただきましたが、中でも、小学生・中学生については具体的に、小・中学生が大人への思い、子ども自身の思い、子どもが今何を求めているかという心理的なお話は、私たちは改めて子どもさんを見直すことを知らされたような気がします。

浦川先生は県生涯学習課長のとき、ココロねっこ運動を展開され、こども政策局長になったら、「長崎っ子を育む行動指針」を発表され、一貫して子どもを育てるための事業に取り組んでおられます。「長崎っ子を育む行動指針」では、家庭・学校・地域と詳しくお話いただきましたが、地域での子どもを見守り育てることに大きな期待をされていて、県下全地区に先づ子ども会をつくり、そこで子どもと大人の方が正面から向き合って子どもと話し合い、子どもの意見を良く聞いて、子どもをお客さんにしないで、子ども自身を引き立て主役にしてやることも大事なことで、指導者・育成者の皆さんの工夫をお願いしたい。

このように地域での子育ての大事なことから、「青少年育成関係者の皆さんの力が必要で、指導者・育成者の皆さんに期待する外ない」という程、期待されておりますので、今日までの尊い体験を生かし、浦川先生のお話に応えるための努力を積み重ねて、子どもさんを見守り育ててゆきたいと皆さん新たに決意されたのではないのでしょうか。

長崎市青少年 育成連絡協議会 研修会 資料





子どもゆめフェスティバル

2007



こうやって作るとばい



長崎大学『突風』の
「よさこい」



ゲームは楽しかよ

平成 19 年 12 月 1 日（土曜日）長崎市民体育館を会場に、「子どもゆめフェスティバル '07」が開催されました。第 5 回目となる今回は、保護者も含め 1,650 名の入場者を数え、趣向を凝らした出展ブースには行列ができるなど大きな盛り上がりの中で終えることができました。

第 1 回からスタッフとして「ゆめフェス」の運営に協力いただいているジュニアリーダー『空』のメンバーより、その思いを寄稿していただきました。

こんにちは！ ジュニアリーダー『空』です

小嶋恵理香



『空』で〜〜す!!

私たちは、各地域での行事のボランティア活動などを行っている団体です。現在は約 30 人で毎月第 1・第 3 日曜日に市民会館で、活動の話し合いなどを行ったりしています。

今年の子どもゆめフェスティバルでは、ステージ発表とブースを 3 つ出しました。

ステージは、4 人でレクリエーションを進行するのは大変だったけど、他のリーダーや子どもたち、大人の方の協力もあって、盛り上がるのが出来ました。

そして、ブースでは、誰にでも簡単に出来る指遊びや、女の子に大人気だった輪投げ、パチンコでは行列が出来るほど、子どもたちが来てくれました。

たくさん準備していた景品も 1 時間ほどで全て無くなってしまい、急ぎょ折り紙で景品を作ることになり、リーダー全員で一糸懸命折り紙を折りました。

この他にも、バトン・よさこい・ソーラン節などの子どもたちの演技はとても可愛く、かっこ良く印象に残りました。

長崎大学の『突風』では、みんな疲れているにも拘らず、すごく元気に掛け声を出したり、踊ったりしていました。

約 3 時間ぐらいというとても短い時間ですが、たくさん友達や思い出が作れると思うので、ぜひ来年はみなさんも参加してみてください。

子どもゆめフェスタの司会を務めて

管 祐一郎

今回、子どもゆめフェスタにおいて自分は司会者という仕事を頂き、これで連続 3 回目の司会者となりました。また司会の仕事を頂くことができ誠に感謝しております。今回の子どもゆめフェスタにおいて、ジュニアリーダーは最初レクリエーションを行い、ブースも出させて頂きました。

レクリエーションでは、子どもたちとゲーム等をして楽しみ、交流を深めることができました。ジュニアリーダーも子どもたちも存分に楽しむことができたようで大変良かったです。司会者から見ても安心できました。

ブースにおいては、パチンコや輪投げ、指遊びの 3 つのブースを出し、どれも子どもたちに人気がありジュニアリーダーとしても頑張ったがいがありました。他の子ども会のブースも、去年以上にとても工夫がされていて大変驚かされました。どれも楽しそうで、自分も遊びに行きたかったぐらいです。

ステージ発表では、子どもたちの発表と長崎大学の『突風』がよさこいを披露してくださいました。子どもたちの発表ではバトンやソーラン節等、どれもかなりの努力が感じられ、見ている側も大変楽しむことができ素晴らしいと思いました。『突風』は、去年と一昨年同様、迫力ある熱い演技で圧倒されました。よさこいの中でも参加者全員で踊ることができ、年齢に関係なくみんなで熱くなり、楽しむことができて大変良かったです。

どの点においてもみんなで楽しむことができて良かったと思います。ジュニアリーダーも一人一人が最後まで楽しむことができ、その中で反省点も見つけれられたと思います。

一人一人が頑張る努力した成果が得られ、その成果が子どもゆめフェスタを無事に終了させることにつながったと私は思いました。

来年も今回以上に努力して尽力していく所存です。

編集後記

「東風ふかば匂ひおこせよ梅の花……」

「東風」とは春頃、東または北東から吹いてくる春を感じさせる風だそうです。梅の花の香りが漂ってきそうな季節になりました。

春はスタートの季節でもありますね。広報委員会も 2 年間の仕事を終え、去る人、残る人今年も変わります。今回で去る人、ほんとうにお疲れ様でした。また引き続き残る人、そして新しく入ってくれる人、これからよろしくお願ひします。

貴重な時間を割いて、広報作りに参加して下さった皆さん、本当にありがとうございました。